



29年ぶりに再会したクラスメートと(於ストックホルム、テーブル左端が筆者)

距離は縮まらない。こんなはずはない！
息苦しくなり頭の中が混乱しかけた時に、
腰のベルトを後ろから引つ張られた。カヌーに到達できないまま海岸にいるチームメートにリールを巻かれ、波打ち際に惨めに
も連れ戻された。失格！ この瞬間、救助隊で活躍する可能性は断たれ、同じ日本からきた同級生がA.Cの代表として活躍する

共同生活から学んだこと

の複雑な思いで応援するしかなかった。
A.Cでの後半は、学業、課外活動、ソーシャルライフに行き詰まって、現実から逃避するため悪ぶってみたり、仮病で授業をサボったりして、自己嫌悪に陥ったりもしたし、成績も惨憺たるものだった。一年生の頃から毎晩図書館の決まった席に座って時間を過ごすようになっていたが、向かいの席に座っていたのがヘレーナだ。自分の夢を語ってくれたり、ときどき落ち込む私を励ましてくれたりした。このような同級生との交流を通じて、肌の色や生い立ちや性別が異なっても人としての喜びや悲しみを分かち合うことができること、自分の意見を持ち相手が理解できるよう伝える努力をすることが大切なこと、自分の運命は自分の力で切り拓かねばならぬことなどを学ぶことができた。

私はA.C卒業後、大学で経済学を学び、都市銀行で入行五年目にアメリカのビジネススクールに派遣された。そこで一番面白かった科目がベンチャーキャピタルだったので、必要な経験を積むためコンサルティン

グ会社と投資銀行に思い切って転職し、四年前から長年の夢だったベンチャーキャピタリストとして、投資先の選定・買収、投資後の経営支援など、多忙だが充実した毎日を送っている。

二九年ぶりの同級生との再会

ヘレーナからのEメールには「住んでいる田舎町で、週末にアジアの映画が上映された時に登場人物の一人があなたにそっくりだった。インターネットの検索エンジンで調べたら、スピーチの原稿とかメールアドレスが出てきたので懐かしくなって連絡したので」と書かれていた。その後お互いに連絡をとりあい、八月四日、ストックホルムでとうとうヘレーナと再会した。二九年の時空を超えて共有する思い出と絆があることに熱い思いがこみあげ、また自分の人生がUWCのおかげで豊かに広がってきたことに思いあたり、あらためて派遣していただいたことの素晴らしさを実感した。

来年卒業して三〇周年を迎えるが、これだけの長期間にわたって継続的に奨学金を提供してくださってきた企業の方々には心から感謝したい。また今後も一人でも多くの若い方がこの体験を共有できるように微力ながらUWCの活動を支援していきたい。

二九年の時空を超えて

UWCアトランティック・カレッジ(英国、一九七二～七四)。
東京大学経済学部、ハーバード大学ビジネススクール修士課程卒(MBA)。三菱銀行、マツキンゼー・アンド・カンパニー、J・P・モルガンを経て九九年にウォーバーク・ピンカスのマネージング・ディレクターに就任。

ウォーバーク・ピンカス・
ジャパン・リミテッド日本代表

深川哲也
ふかがわてつや

深夜のEメール

昨年十一月、韓国の企業を買収するため、連日夜遅くまで暖房が切れたソウルのオフィスに立て籠もり、疲労もピークに近づいていた深夜に、パソコンのスクリーンに新着のメールが入ってきた。差出人はR・ヘレーナ。まさか！二八年前、卒業の二日後にロンドンの地下鉄の駅で大きなハグをして別れた、プラチナブロードと透き通るようなブルーの瞳のスウェーデンからの留学生……。アトランティック・カレッジ(以下AC)での甘酸っぱい思い出が蘇ってきた。

UWCでその後の人生の エッセンスを体験

一九七二年七月、UWC日本協会の奨学

生の第一期生として、私は英国南ウエールズのACに留学させていただいた。当時の日本はまだ経済発展の途上であり、かつ高校生の英国への留学はきわめて稀で、電話やメールなど通信の手段も限られており、相当の覚悟で渡英した。留学前の私は小学校から国立の付属でエレベーター式に高校まで進学し、水泳部や体育祭で活躍して井の中の蛙の状態にあった。ACでの二年間は、初めて大きな挫折を味わい、その後の人生で経験することになるさまざまなチャレンジングな局面のエッセンスを二年のうちに凝縮して示してくれたと思う。現在私は世界最大の投資会社の一つであるウォーバーク・ピンカスの日本の代表としてアジア地域でのベンチャー企業や企業再生がらみの投資活動に従事している。UWCでの経験が、背景や考え方の違う人々と仕事を

●(社)ユニテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるUWCの日本委員会として、毎年一〇名以上の高校二年生を世界各地にあるUWC傘下の高校に派遣し、すでに三七〇名以上の卒業生を輩出している。

していく上で何とかやっつけていけるさという妙な自信の裏付けとなっていることは疑いようがない。

失敗と挫折

ACでの最大の失敗と挫折の苦い経験は今でも夢にまで見る。ACの特徴は、全寮制で世界各国からの生徒が毎日午前中に学業を、午後に奉仕活動を行うことだ。私は海難救助隊を選んだが、この隊員の資格試験は、海岸から一〇〇メートルほど沖合いに浮かべたカヌーに向かって腰にベルトを巻いて泳ぎ、溺れかけている人を救助する。その後、陸上にいる部隊がベルトに結ばれたロープをリールで巻き上げることで、隊員と溺れかけた人を岸まで引っ張ってくるというものだ。カレッジのあるブリストル海峡は潮の流れが速く、それを十分考慮しなかった私は沖に浮かぶカヌーから一〇メートル以上も流されてしまった。カヌーを目指して懸命に泳ぐが、潮の流れは想像していたよりもはるかに強く、カヌーまでの